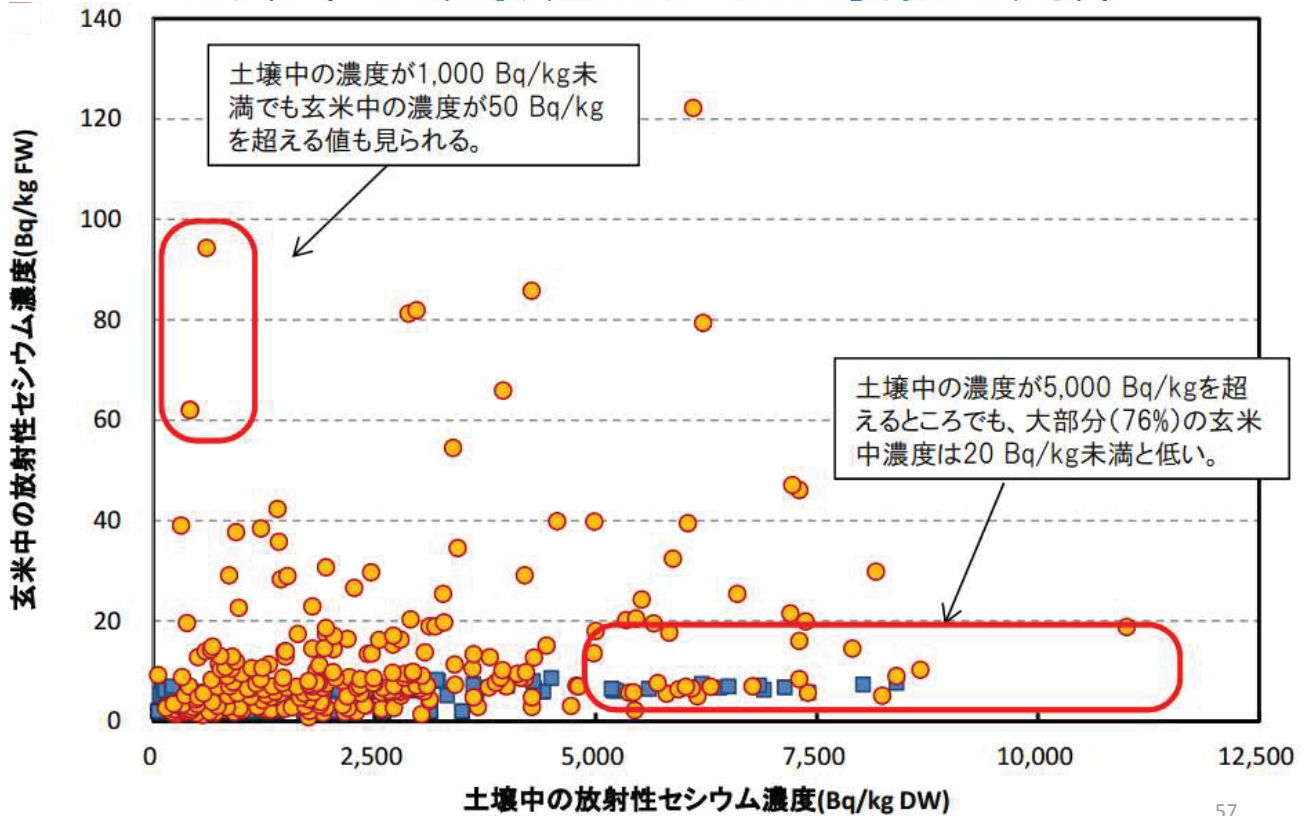
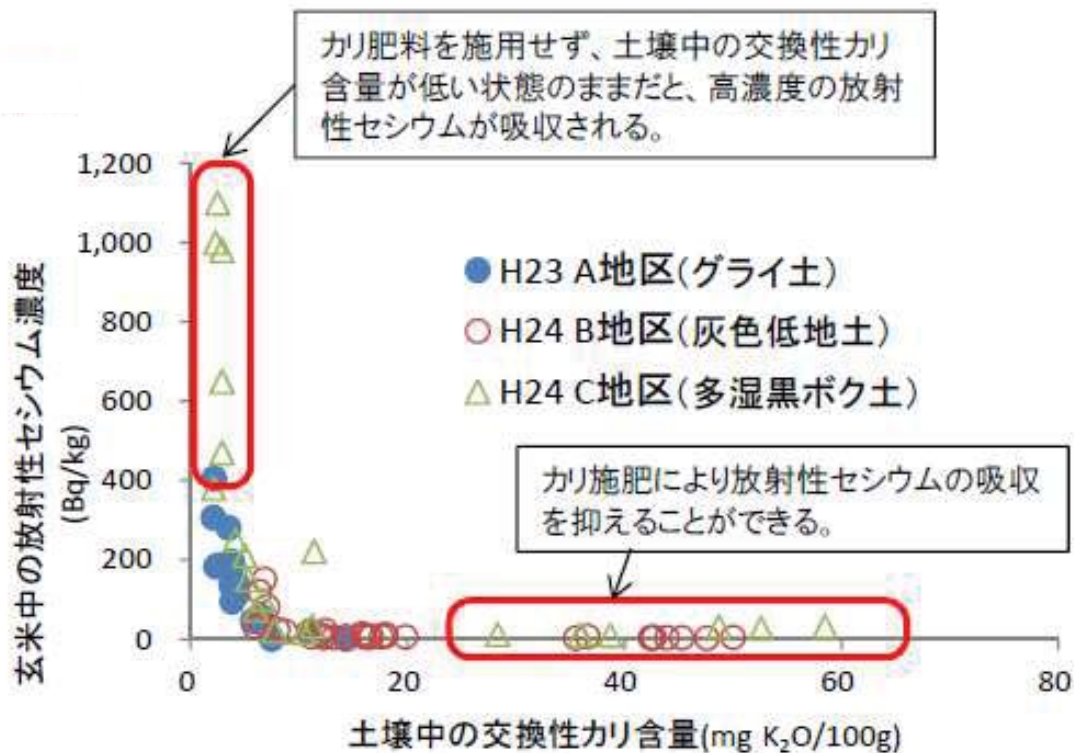


## 土壤中の放射性セシウム濃度と 玄米中の放射性セシウム濃度の関係



<http://www.cms.pref.fukushima.jp/download/1/youinkaiseki-kome130124.pdf>

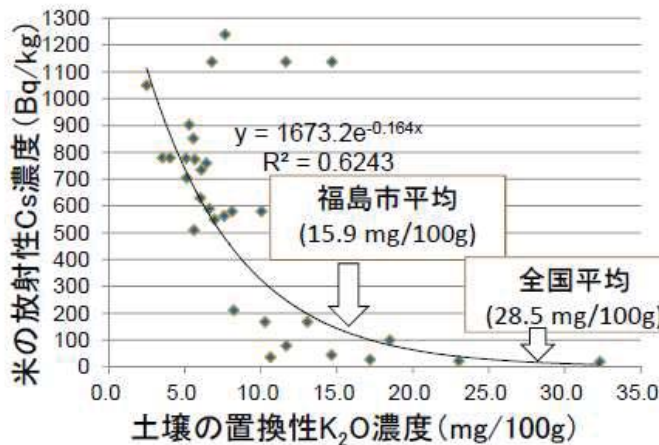
## 土壌のカリウム濃度と 玄米のセシウム濃度の関係



58

<http://www.cms.pref.fukushima.jp/download/1/youinkaiseki-kome130124.pdf>

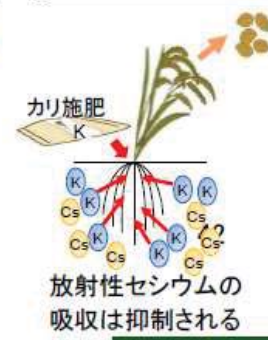
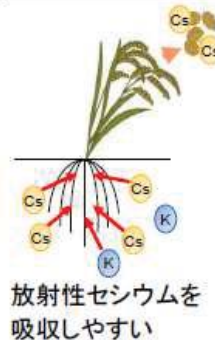
- ・玄米中の放射性セシウム濃度が高い値がみられた水田では、土壌中のカリウム濃度が低い傾向が見られた。
- ・土壌中のカリウムは、セシウムと化学的に似た性質を有しており、作物のセシウム吸収を抑える働きがある。



カリ施肥による稲の吸収抑制対策

土壌中のカリ濃度が不十分な場合

土壌中のカリ濃度が適正な場合



農林水産省

汚染水のニュースもあるし、魚は心配よね。だって、よそで水揚げされたって、福島沖を泳がなかったかって聞けないわ



## 水産物の調査の考え方

- 調査対象魚種の拡大や調査頻度の増加など調査を強化
  - ・ 50 Bq/kgを超えたことのある魚種や主要水産物を中心に調査
  - ・ 近隣県の調査結果を参考

沿岸性魚種等 (例:コウナゴ、スズキ、カレイ等)	水揚げや漁業管理の実態、漁期等を考慮し、県沖を区域に分け、主要水揚港で検体採取。表層、中層、底層等の生息域を考慮して調査。
回遊性魚種 (例:カツオ、イワシ・サバ類、サンマ等)	回遊の状況等を考慮して、漁場を千葉県から青森県の各県沖で区分(県境の正東線で区分)し、区域毎の主要水揚港で検体採取。
内水面魚種 (例:ヤマメ・ワカサギ・アユ等)	漁業権の範囲等を考慮して県域を適切な区域に分け、主要区域で検体採取。

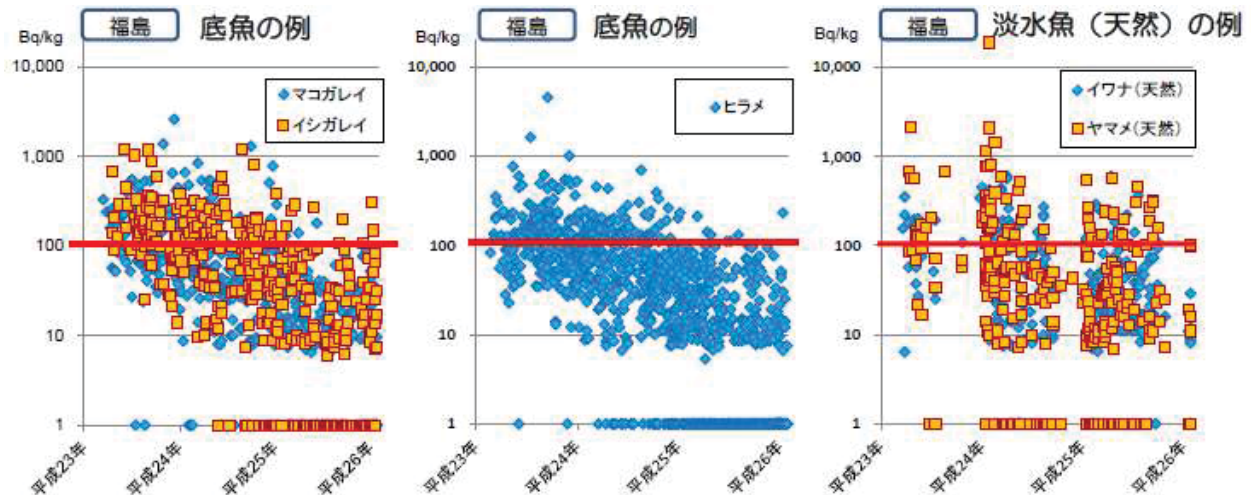
(注) 平成25年2月28日現在

農林水産省

## 魚種による傾向 (福島県)

- 底魚：福島県を含む一部地域で基準値を上回る魚種が存在
  - 淡水魚：福島県を含む一部地域の天然魚では、基準値超えが見られる一方、養殖魚では全て100 Bq/kg以下。
- 生息域の環境や食性等が品目毎の傾向に関係。

放射性セシウム濃度



(注) 平成23年3月24日～平成26年3月31日までの検査結果を水産庁にて集計。